

# 塚廻り 古墳群

TSUKAMAWARIKOHUNGUN



椅子に座り杯を捧げる巫女

## 塚廻り古墳群の概要

塚廻り古墳群は、太田市龍舞町の休泊台地東側の沖積地に所在しています。洪水による泥流に覆われているため、現在は平坦な水田地帯となっていますが、かつてここは、北西から南東へ緩やかに傾斜する低台地であったと考えられます。

昭和52年、県営圃場整備事業に伴い、群馬県教育委員会によって発掘調査が行われ、7基の古墳が確認されました。古墳の時期は、6世紀中葉から後葉と推定されます。4号墳と3号墳の一部は現状保存されました。また、4号墳をはじめとする古墳から、多くの形象埴輪が出土しました。

平成22年には、太田市教育委員会の調査によって、4号墳の818年(弘仁9年)と推定される洪水の跡が確認され、この下から新たに4基の古墳が確認されました。この結果から、周辺にはまだ多くの古墳が存在していると考えられます。



塚廻り古墳群の位置 (1/40,000)



塚廻り古墳群全体図



10号墳の洪水層

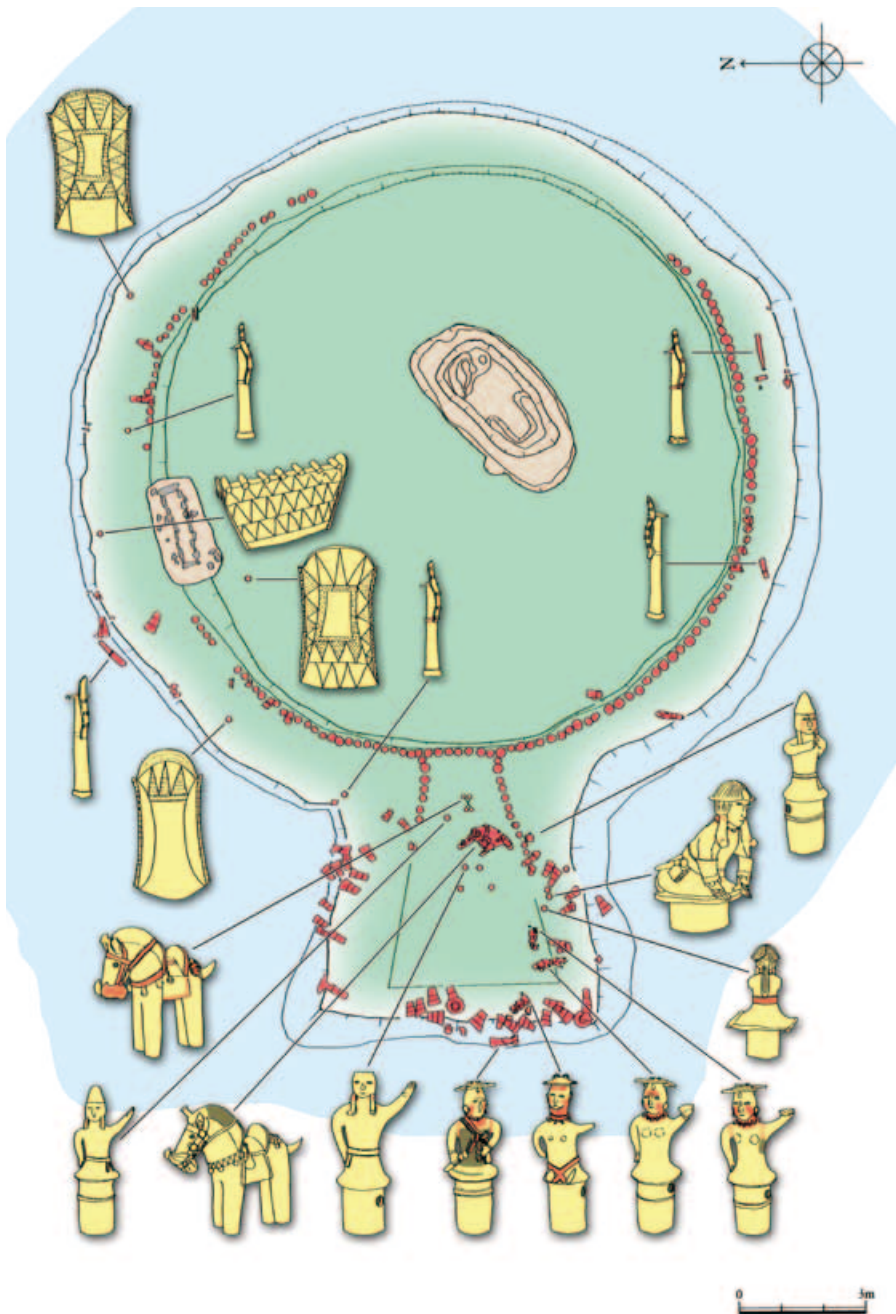


塚廻り古墳群4号墳

## 4号墳

主軸の長さが22.5mの帆立貝式古墳です。後円部の直径は17.7m、前方部幅は8.7mあります。後円部では、2基の主体部が確認されました。第1主体部は後円部の中心から南東よりに設置されていました。長さ3.3m、幅1.5mの楕円形の掘り込みがあり、石はすべて取り除かれていましたが、箱式石棺があったと考えられます。第2主体部は第1主体部の北6mに箱式石棺が造られていました。石棺から骨や副葬品は出土しませんでした。

4号墳では、総数304本の埴輪が出土しました。内訳は、円筒埴輪253本、形象埴輪35本などです。後円部には円筒埴輪が巡らされ、このまわりに大刀と盾が交互に配置され、第2主体部付近には家形埴輪も置かれていました。前方部には、人物埴輪や馬形埴輪が配置されていました。前方部の手前(東端)には4体の女子像が配置され、この東部には椅子に座った男子、跪く男子などの7人の男子像が配置され、この北部には飾り馬と馬子が配置されています。これらの埴輪は、帆立貝式古墳の埴輪樹立様式を伝えると共に、造形的にも一級の資料で、全国でも有名な埴輪群像です。



4号墳の埴輪出土状態



埴輪出土状態



第2主体部



たぢを持つみま 復元高78.7cm



鉢を捧げる巫女 復元高74.5cm



鉢を捧げる巫女 高さ76.4cm



4号墳の埴輪は、椅子に座る男を中心人物として、<sup>しゅちやうけん けいしやう</sup>首長権が継承される<sup>ぎしき</sup>儀式を再現したものと考えられています。4体の巫女は祭りに係る集団を<sup>みこ</sup>表わし、男子像は政治を行う集団と職業集団<sup>しよくぎやうしゆうだん</sup>を表しています。



ひざます  
跪く男(正面) 復元高49.4cm



左手を<sup>あ</sup>げる<sup>み</sup>巫女 復元高62.0cm



<sup>さ</sup>捧げ持つ男 高さ80.3cm



跪く男(背面)と椅子に座る男 (椅子に座る男 復元高84.0cm)



馬子と馬形埴輪(馬形埴輪 高さ86.5cm)



馬子と馬形埴輪(馬形埴輪 復元高70.0cm)





大刀と基谷 (大刀高さ131.2cm)

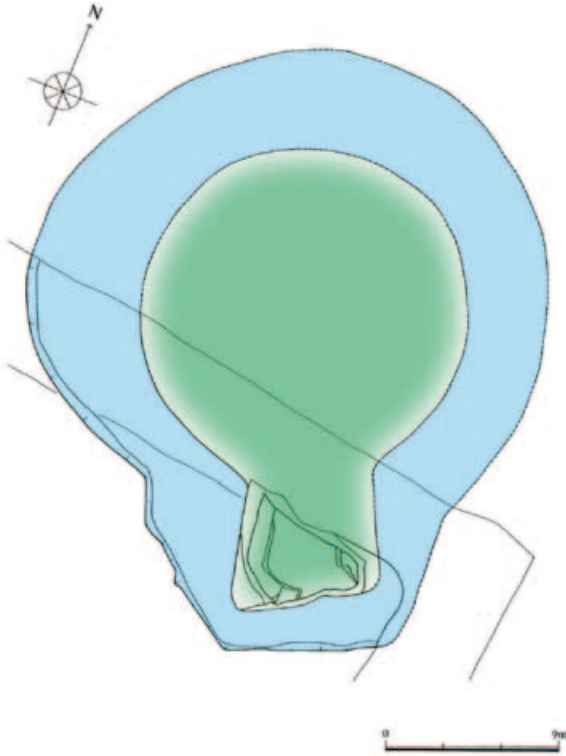


大刀 高さ125.2cm

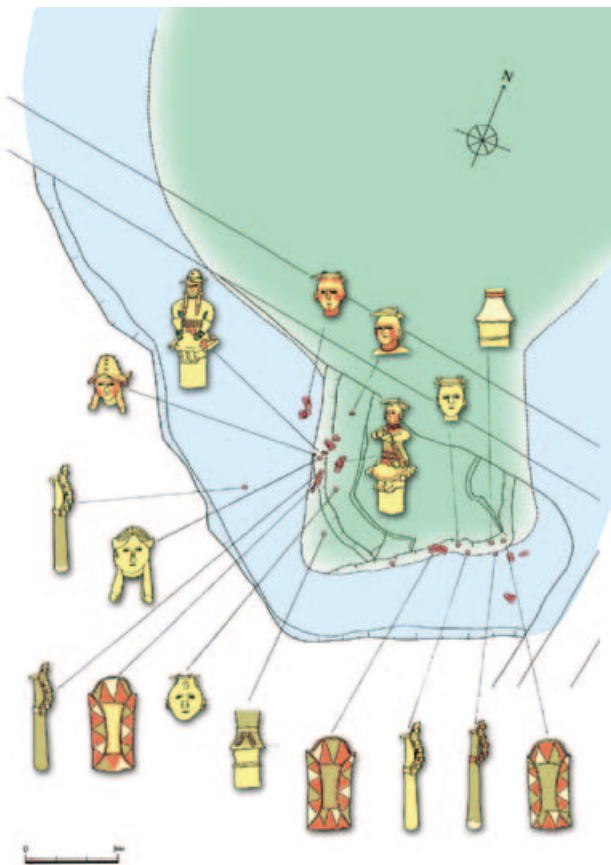
### 3号墳

3号墳は、後円部の南半分が水路によって壊されていたため、前方部の南西隅とこの周辺を調査しました。墳形は、主軸長23.6mの帆立貝式古墳です。

合計66本の埴輪が出土しました。内訳は円筒埴輪45本、形象埴輪21本です。形象埴輪は、人物埴輪が12本、器財埴輪が7本、器財埴輪の台2本です。このうち、人物埴輪は、椅子に座り帽子をかぶる男1体、椅子に座り坏を捧げる巫女1体などが周溝に転落した状態で出土しています。



3号墳



3号墳の埴輪出土状態



盾形埴輪 高さ101.0cm



いすに座り杯を捧げる巫女 高さ68.9cm

分銅形の島田髷を頭の真上で結っています。耳には輪の耳飾りを付け、首には2連の首飾りを付けています。左手に杯を持ち、これに右手を添えています。右肩から左わきには彩色模様のたすきをかけ、腰の上には六鈴鏡を下げています。



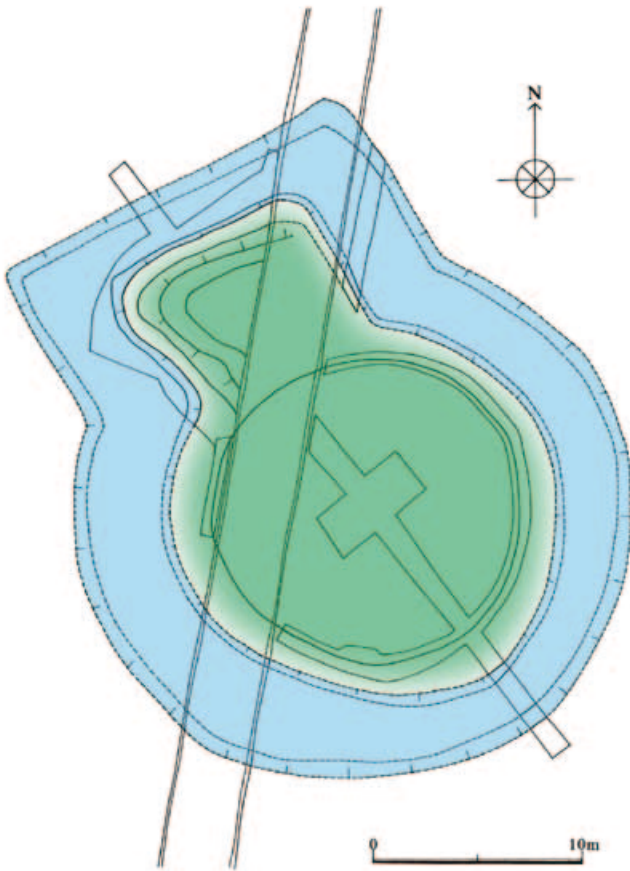
いす  
椅子に座り帽子をかぶる男 高さ82.3cm

基部と衣の裾は復元したものです。つばの付いたぼうしをかぶり、かみの毛は美豆良を結っています。首に丸玉の首飾りを巻き、腕には籠手をはめています。また、椅子の左側には玉纏大刀を置いています。

## 1号墳

1号墳は、主軸長が26.1mの帆立貝式古墳です。後円部径は18.8m、前方部の幅は10.8mあります。

埴輪の総数は、257本で、内訳は円筒埴輪238本、形象埴輪19本です。形象埴輪は、人物6本、器財6本などが出土しています。前方部の前には盾持ち人、韃ゆびなどの器財が並べられていました。



1号墳



韃ゆび 現存高61.5cm(矢を納める道具を形どった埴輪)



盾持ち人 出土状態



盾持ち人出土状態



たて  
盾持ち人 高さ140.0cm

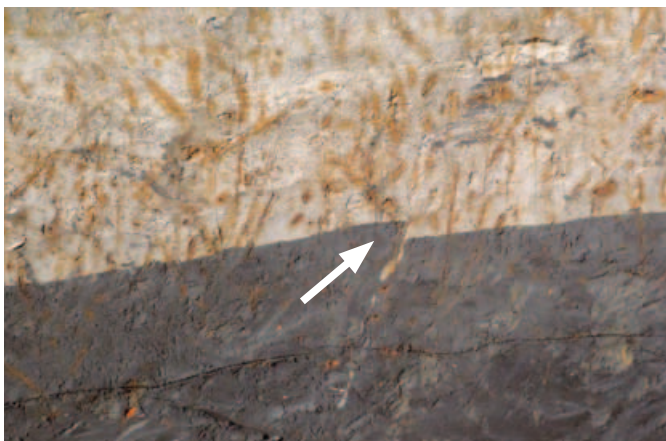
盾持ち人は首と胴体が別々に作られ、胴体に首を差し込んで1組になります。

## 平成22年度の調査

塚廻り古墳群4号墳の西側と南側に水路が造られることになり、平成23年2月から3月に、太田市教育委員会による発掘調査が行われました。この結果、818年と推定される洪水層が確認され、これに埋まった形で、古墳4基、住居跡2軒などが確認されました。この調査では、4号墳の周りに多くの古墳が造られていたことが明らかになりました。残念ながら埴輪は全く出土しませんでした。12号墳の周溝内から古墳時代の土器22個体がまとめて出土しました。このことは、隣の古墳で埴輪とは全く異なった祭祀が行われていた可能性があり、注目されます。



平成22年度調査全景 空中写真



10号墳で確認された地割れの跡



12号墳から出土した土器

塚廻り古墳群の埴輪は、「<sup>こうづけ</sup>上野塚廻り古墳群出土埴輪」として、昭和60年6月に国の重要文化財に指定されました。また、塚廻り古墳群のうち4号墳と3号墳の一部は、昭和52年9月に、「塚廻り古墳群第4号古墳」として群馬県指定史跡に指定されました。



塚廻り古墳群第4号古墳の現状



塚廻り古墳群第4号古墳 埴輪集合写真

※塚廻り古墳群の埴輪は国(文化庁)で保管されています。なお、本パンフレットに使用した埴輪の写真は、文化庁の許可を得て、群馬県立歴史博物館及び財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団より借用し、掲載いたしました。塚廻り古墳群の遺構の写真および図面についても財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団より借用いたしました。

**太田市教育委員会  
文化財課**

〒370-0495 群馬県太田市粕川町520  
TEL0276-20-7090 FAX0276-52-6080  
印刷 平成24年3月